


※注意：このシートは横浜市の  
ホームページ等で公開されます。

No. 2

まちづくりコーディネーター 登録シート（閲覧用）①

フリガナ	いしかわ えいこ（おかだ えいこ）			
氏名	石川 永子（本名：岡田 永子）			
派遣希望区	<input checked="" type="checkbox"/> 市内全域 <input type="checkbox"/> (    ) 区			
支援専門分野（注1）		支援専門分野の内容		
ルール又はプランづくり等	地域まちづくりプラン    地域まちづくりルール 地区計画    建築協定    景観計画    景観協定 まち普請事業 その他地域のまちづくりに関する計画			
市街地開発事業等	土地区画整理事業    市街地再開発事業			
防災まちづくり等	<input type="checkbox"/>	横浜市の制度を活用した地震火災対策 密集市街地の改善    防災・減災の指導		
その他得意とする分野（複数選択可）	地域福祉（高齢者・障がい者・子育て支援等）    防犯    水・緑・環境 歴史・文化・アート    空き家・空き地の利活用    商店街活性化 狭あい道路整備    耐震改修    共同建替    コミュニティの再生 地域の活動拠点運営    地域交通サポート事業    ICT・WEBの活用 その他（    ）			
支援専門分野に関する支援の実績等	支援専門分野の内容・支援可能なテーマ	地区名	時期	支援内容等 ※ 支援の成果も含め、できるだけ具体的にお書きください。 (200文字以内かつ9行以内)
	防災まちづくり（地域ぐるみの耐震化まちづくり）	東京都墨田区 京島地区	2004-2008年	木造密集市街地まちづくり協議会の運営・企画支援 ・京島こわれないまちづくりの推進（耐震・家具転倒防止の推進） ・空き店舗を利用した耐震モデルハウス（地元4工務店+建築士協会と協働）の企画 ・運営支援・空き長屋を耐震改修した「逆デイ（高齢者施設の入居者を昼間に地域で過ごす）」の試み ・震災疎開交流（新潟の被災復興集落と） ※内閣府都市再生モデル事業に申請・採択、消防庁第12回防災まちづくり大賞優良事例
	防災まちづくり（インクルーシブ防災）	兵庫県神戸市 兵庫区	2009-2011年	障害者当事者団体（自立支援協議会防災を考える会）と共に、避難所（福祉スペース）の限られた空間や資源をどのように活用するかや、自治会館等地域避難所で、地域の方々と共に障害のある方が避難生活を安心して過ごせるよう、当事者による出前講座（自治会向け）の企画・運営サポート

（注意）支援専門分野は、横浜市まちづくりコーディネーター等及びまちづくり支援団体の登録等に関する要綱の別表第1を参照してください。

※注意：このシートは横浜市の  
ホームページ等で公開されます。

まちづくりコーディネーター 登録シート（閲覧用）②

支援専門分野に関する支援の実績等	支援専門分野の内容・支援可能なテーマ	地区名	時期	支援内容等 ※ 支援の成果も含め、できるだけ具体的にお書きください。 (200文字以内かつ9行以内)
	中学校の総合学習時間を活用した復興まちづくり学習	宮城県南三陸町 福島県楡葉町	2012年 2017年	自治体外に集団で避難（学校も）していた中学生が、自分が住んでいたまちの復興まちづくりに関心を持ち、子ども達がまちの復興について意見をもち提案できる力、自分とまちの関係性を考える連続授業を、中学教師と共同で実施。 この学習後、それぞれの学校では、さらに展開する活動がみられた
	福祉施設職員・管理職向け研修の実施	横浜市・神奈川県（自治体・社協等）		毎年、何件か、福祉職員向けの研修を実施 ・小規模福祉施設（グループホーム）等の災害後の事業継続計画・利用者サポート等を一緒に考える訓練・研修の実施（中区等） ・福祉避難所の開設と利用者のサポートについて
	防災まちづくりキャンプ（子ども避難所運営・事前復興まちづくり訓練）	横浜市都筑区・金沢区（横浜市立大学）	2006年	都筑区のNPO法人 I LOVE つづきと連携し、2泊3日（事前学習数回）で、横浜市立大学体育館にてキャンプを行った ・大人が避難者として参加し、子どもがつくった避難所のルールに沿って運営する避難所開設訓練 ・被災～地域まちづくり復興までを模擬体験する事前復興まちづくり連続ワークショップの企画実施・とりまとめ

自身の考えるコーディネーターの役割とまちづくりのポイント（500文字以内）

- ・参加した住民・住民団体・福祉専門職・障害当事者等と一緒に考えながら、皆が納得しながら先に進んでいけるようなファシリテーション、訓練企画をすることが大切。これがコーディネーターの役割。
- ・参加した人が、それぞれの意見を伝えられるような場づくりをしながらも、専門家として、ポイントではきちんとコメントをして、穏やかに導いていくことも必要
- ・行政と地元とのコミュニケーションを円滑に行っていくうえで、うまく円滑材になることも必要

必要に応じて資料を A4 判 1 ページまで添付できます。